

医療福祉建築特集 2023

リアルとバーチャルを組み合わせたハイブリッド診療、VR（仮想現実）技術の医療分野への活用が進み、医療提供の形態も変化しつつある。本特集では、変わる医療の形に対する医療福祉建築の在り方などを、芝浦工業大学の小菅准教授に聞いた。そのほか、設計事務所の医療福祉建築プロジェクトを紹介する。



「米国では入院患者がすぐ退院させるのが一般的。米国の平均在院日数は5日程」

「医療福祉建築の現在の課題は、患者の高齢化、重症化、マンパワー不足に対応できる環境が求められている。特に患者の高齢化は難しい問題です。高齢患者が増える看護には介護業務の負担も発生し、また複数疾患を併発する患者も増えるために治療計画も困難になります。日本人が長期を入院で迎える割合は諸外国と比べてかなり大きく、一時は全死した者のおよそ8割を占めています。今は政策の転換によりだいぶ減ってきましたが、終末期に医療が必要なケースも多く、看護現場のあり方の検討は喫緊（きんきん）の課題となっています」

interview

芝浦工業大学 建築学専攻 建築計画研究室 准教授 小菅 瑠香氏

「急性期病院で患者の重症化が起った理由は、急性期病院でも患者の治療から療養まで包括して実施する傾向がありました。日本の病院を視察した海外の方は、病棟の食堂を見、移動して食事ができるほど回復した患者がまだ入院しているのかわかると驚かれます。実際には診療報酬の影響もあり、今は高齢化でかかむ医療費に歯止めをかけるため、日本も治療特化型へ切り替えています。国は各病院が専門とする治療に専念できるように、病床機能を高度急性期、急性期、回復期、慢性期の四つに分化する政策を進めています。さらに入院が必要なければ高齢者施設や自宅に積極的に移し、地域包括ケアを推進しています。そのため急性期病院には重症な患者が残り、長期療養は行わないため、日本の一般病床の平均在院日数は2020年時点で16・5日、1995年の33・7日と比較して半減しました。建築においても急性期病棟は集中治療室（ICU）に近いになっています」

「医療従事者の不足についてはどうですか。」「マンパワーを集めるのに苦心している医療機関はたくさんあります。少子化によって子ども労働人口が減っていることもありますが、やはり患者の高齢化による重症化によって看護に求められる役割が多くなっているためです。患者だけでなく医師・看護師を磁石のように引きつけておくための魅力ある病院を意味する『マグネット・ホスピタル』という言葉があります。看護師が定着すれば看護の質も安定します。それが評判につながるといえるでしょう。米国のように考え方を改善して、患者が集まり病院の経営改善につながるという考え方を認めた施設は増えてきています。日本国内の病院では19年に聖路加国際病院が日本初の認証を受けました。医療従事者の不足解消と、質の高い医療・看護の提供を目指して、マグネット・ホスピタルとしての要素を建築に取り入れることも重要です」

従事者不足対応が課題

（こすげ・るか）1999年早大建築学専攻卒業、2006年東大大学院後期課程修了。現代建築研究所設計部、Clemson University, Texas A&M University（米国）客員研究員、厚労省国立保健医療科学院研究員、厚労省国立保健医療科学院研究員、神戸芸術工科大学助手、塚山大学准教授、芝浦工業大学准教授（工学）、一級建築士

柔軟性ある設計を

「課題の解決に対して建築はどのような解決策を提示すべきか。」「数十年前までの医療提供体制を予測し、病院を設計することが課題の解決につながります。人口構造の変化や診療報酬改定、医療技術の進歩に対して、建築の建て替えサイクルは長期的で、多くは建築から半世紀の間、医療の提供場所として使われます。急性期病院であっても、平均在院日数が1カ月あった時代の1看護単位（注②）50床前後で作られた病棟を使い続けているところも多くあり、既に現在の社会需要には不適合な病院も存在します。先ず自単位の新しい病院では、1看護単位

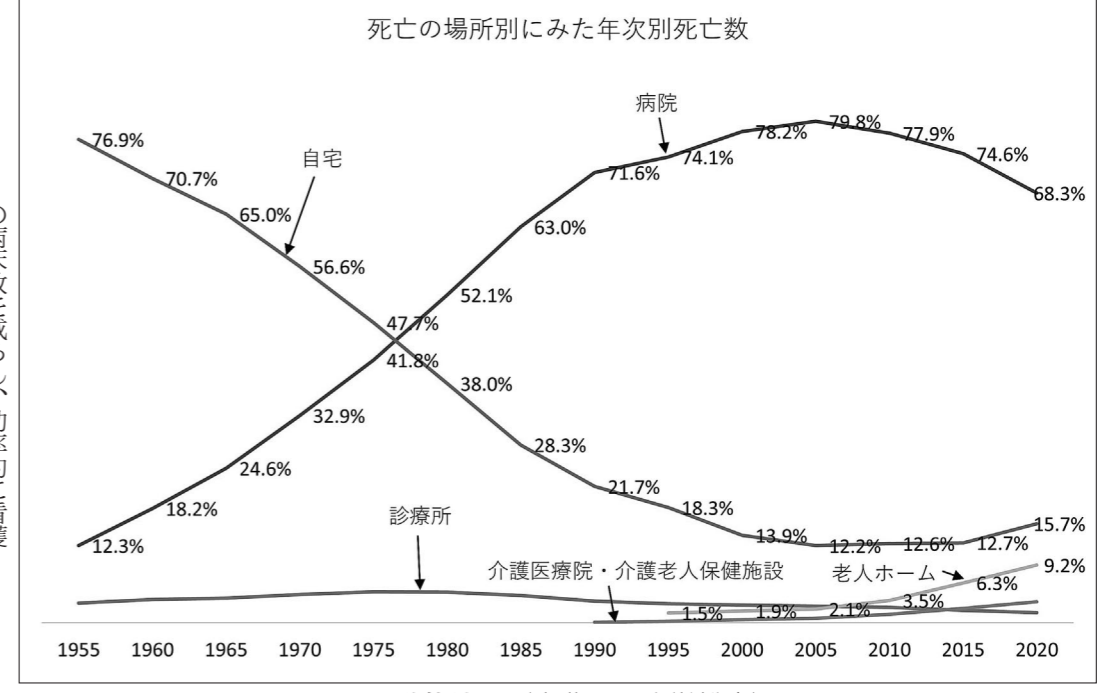
「診療のハイブリッド化とは何か。」「ICUでは、院内外をつなぐ技術と定義して話します。現在、対面に加えてオンラインを用いた遠隔での問診の導入が拡大しています。都心部でも地方部でも平等に医療を受けられるため、医療の地域間格差解消に寄与します。かつて「患者が自身の健康管理を病院に預ける」という医療の提供は終わり、これからは「患者は自身の責任で健康維持を行い、病院はその補助を担う」スタイルに変わっていきます。オンラインで医師の意見を聞けることは、患者の日常的な健康管理にも有効です」

「医療福祉分野で旬な話題は。」「地域医療連携、診療スタイルのハイブリッド化、医療・病院DXなどが挙げられます。医療が必要な高齢者人口が増えるなか、本に重篤な患者以外には自宅や近所をケア受けてもらうような環境を創出できるように、診療と介護をつなげた地域医療連携に注力しています。病院は引き受ける患者を限定し、合理的な運営を行えるよう、再編統合などで数を減らしています。しかし地域分散型ケアの実施は、訪問移動型スタッフの業務が増える部分もあり、いかにして高齢者の健康寿命を延ばし、労働人口の負担を軽減していくかが課題です」



「情報技術の導入による医師側のメリットはあるか。」「画像を共有して遠隔で別の医師の意見や技術指導を受けながら治療を実施したり、AIの助けを借りて診断を行ったりすることができ、東京女子医科大学が設置するスマート治療室「SCOT」では、IoTを生かして治療室内にあるさまざまな医療機器の情報を連携・統合し、一体的な装置として機能させ、手術の精度や安全性を向上させる取り組みを行っています」

「大きな病院での専門医療に対し、身近にあり、さまざまな病状を気軽に相談できる医療施設を担う一定の看護要員の集団」



死亡の場所別にみた年次別死亡数
人口動態統計（出典：厚生労働省）
（注1）1994年までの老人ホームでの死亡は、自宅又はその他に含まれる。
（注2）2017年までの介護医療院・介護老人保健施設は、介護老人保健施設の数値である。
（注3）04・06・09～17年の都道府県からの報告漏れ（19年3月29日公表）による再集計を行ったことにより、17年以前の報告書とは数値が一致しない箇所がある。

「検査と治療の境界が薄くなってきています。血管撮影装置や磁気共鳴断層画像診断装置（MRI）を手術室内や隣接室に設置して、手術中に検査が行えるハイブリッド型の手術室が増えています。また手術計画にVR・ARを用いた3D医療用画像を使用する試みなども始まっています」

ICUに近い病棟のつくりをしている徳洲会羽生総合病院（写真提供・小菅准教授）

西松建設株式会社 取締役社長 高瀬 伸利	飛鳥建設株式会社 代表取締役社長 乗京 正弘	株式会社 フジタ 代表取締役社長 奥村 洋治	戸田建設株式会社 代表取締役社長 大谷 清介	株式会社 大林組 代表取締役社長 兼 CEO 蓮輪 賢治	株式会社 竹中工務店 取締役社長 佐々木 正人	大成建設株式会社 代表取締役社長 相川 善郎	清水建設株式会社 取締役社長 井上 和幸	鹿島建設株式会社 代表取締役社長 天野 裕正	日本建設業連合会 一般社団法人 会長 宮本 洋一 東京都中央区八丁堀二丁目1番1号 電話 03-3553-0700（代表）
株式会社 鴻池組 代表取締役社長 渡津 弘己	東急建設株式会社 代表取締役社長 寺田 光宏	三井住友建設株式会社 代表取締役社長 近藤 重敏	長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池上 一夫	五洋建設株式会社 代表取締役社長 清水 琢三	鉄建建設株式会社 代表取締役社長 伊藤 泰司	佐藤工業株式会社 取締役社長 平間 宏	熊谷組 取締役社長 櫻野 泰則	安藤ハザマ 代表取締役社長 国谷 一彦	前田建設工業株式会社 代表取締役社長 前田 操治
株式会社 ナカノフドー建設 代表取締役社長 飯塚 隆	株式会社 松村組 代表取締役社長 村上 修	株式会社 ピーエス三菱 代表取締役社長 森 拓也	青木あすなる建設 代表取締役社長 辻井 靖	りんかい日産建設 代表取締役社長 前田 祐治	若築建設株式会社 代表取締役社長 鳥田 克彦	東洋建設株式会社 代表取締役社長 武澤 恭司	東亜建設工業 代表取締役社長 早川 毅	大豊建設株式会社 代表取締役社長 森下 覚恵	株式会社 奥村組 代表取締役社長 奥村 太加典

安井建築設計事務所

医療法人社団啓啓会 神埼病院
地域と調和し、まちを元気にする病院



建物の老朽化に伴う、移転建て替え計画。計画地は神埼市街地と自然豊かな脊振山地の中間に位置する。自然な曲線と人工的な直線が連続する特徴のある外観とし、普遍的に地域に愛され続け、機能性が高く使いやすい病院を目指した。病床数は99床で、1階は外来とデイケア、2階は病棟とリハビリ、3階は病棟という明快なゾーニングで構成した。敷地正面の北東部に広がるリハビリ庭園は、明るくいきいきと活動できる場として、病院の新たな顔となることを期待している。

■建築主：医療法人社団啓啓会神埼病院 ■所在地：佐賀県神埼市 ■構造：RC一部S造 ■階数：地上3階 ■延床面積：4,674㎡ ■病床数：99床 ■施工：松尾建設 ■竣工：2023年8月予定

山下設計

千葉県千葉リハビリテーションセンター
レジリエントな環境づくり



本計画は、千葉県の障害者リハビリテーション体制の中心的役割を担う施設としてふさわしい療養環境づくりを目指し、敷地内で段階的に全面建て替えを行うものである。

利用者が、前向きな気持ちで「回復」に向かえるように普段の生活の中で移動しやすい低層化に努め、緑豊かな自然環境を積極的に取り込むテラスや吹き抜けを計画した。また、施設自体が、将来の変化に「柔軟」に対応できるように、耐久性に配慮した構造計画の元、フレキシビリティの高い設備・内外装計画を行っている。

■建築主：千葉県 ■所在地：千葉市緑区 ■構造：S一部RC造 ■階数：地上8階 ■延床面積：約38,400㎡ ■病床数：260床、福祉施設40室(個室) ■施工：未定 ■竣工：2030年度予定

医療福祉 建築特集

2023

完成予想パース・図版は各社提供

日建設計

豊田地域医療センター
リハビリテーションで結ぶ地域と病院、患者と家族



病棟の種類が全階で異なるためそれぞれを最適化した平面とし、凹凸が異なる外形を、丘を模したバルコニーで包んだ建物とした。1階玄関では受付、外来、地域支援と病棟エレベーターを一度に見渡せる構成とした。2階をリハビリテーションセンター階として屋上庭園と一体整備し、大階段で地上の散歩道とつなぐことで、患者がリハビリテーションで外に出たり、地域住民が病院行事で訪れたりする造りとし、地域と病院、家族と患者をつなぐ、コミュニティ・ホスピタルとした。

■建築主：豊田市 ■所在地：愛知県豊田市 ■構造：SRC一部RC・S造 ■階数：地上7階 ■延床面積：16,677㎡、全体合計30,508㎡(診療棟) + 既存棟13,831㎡ ■施工：【新棟、南棟(診療棟、健診棟)】建築/鴻池・太谷JV、電気/東光・小野JV、空調/三建・三河JV、衛生/川崎・中根JV【西棟(コミュニティプラザ)改修工事】建築/鴻池組、電気/小野電気、空調/三和、衛生/中根管工 ■竣工：2022年12月

日本設計

台州病院新院区
癒やしの療養環境にふさわしい森の中の病院



本病院は、病床の規模、医療技術等において中国で最高ランクに位置する総合病院である。「森の中の病院」というコンセプトを掲げ、豊かな緑に囲まれた癒やしの療養環境を整備した。

内部は低層部の中心を貫くT字型のアトリウムによるわかりやすい空間構成とした。各部門の窓口がアトリウムにあることで、初めての来院者でもサインに頼らずとも空間の構成で行き先がわかる「ウェイファインディング(Way finding)」の考え方を実現した。

■建築主：台州恩沢医療中心(集団) ■所在地：中国浙江省台州市 ■構造：RC一部S造 ■階数：地下2階地上19階塔屋1階 ■延床面積：219,594㎡ ■病床数：1,200床 ■照明設計：シリウスライティングオフィス ■ランドスケープ：アーススケープ ■サイン：上海芸凱設計(GK上海) ■施工図設計：現場監修・構造・設備：浙江省建築設計研究院 ■施工：建築/中化学曙光建设有限公司、電気・空調・衛生/浙江諸安建設集团有限公司 ■竣工：2021年12月

松田平田設計

神戸百年記念病院 新棟整備計画
人口減少時代に対応した地域に寄り添う病院



100年以上にわたり地域医療に貢献をしてきた、歴史のある病院の増築、改修計画。利用者ニーズの変化を見据えた病棟環境を追求し、患者のプライバシーと入院QOLの向上を図るとともに、スタッフの看護環境や感染症などさまざまな変化に対応できる病棟計画としている。地域との連携性を向上させるため、紹介・入院患者が長時間待つことなくスムーズに相談が行える総合支援センターをエントランスホールに面して整備し、在宅復帰への支援をさまざまな専門分野からサポート出来る計画としている。

■建築主：医療法人社団 顕鐘会 ■所在地：神戸市兵庫区 ■構造：RC一部S造 ■階数：【新設】地上5階【既存】本館/地下1階地上7階、管理棟/地下1階地上5階 ■延床面積：24,700㎡ ■施工：未定 ■竣工：2027年5月予定

大建設計

医療法人社団愛友会 伊奈病院
複数の病床機能を併せ持つケアミックス病院



伊奈町および埼玉県医療圏の幹幹病院である伊奈病院は、急性期医療から慢性期医療、地域との医療連携を通じた在宅復帰支援、さらに人間ドック・健康診断などを通じて地域の健康を支えてきました。本計画はさらなる地域貢献のため、増床を機会に移転新築する計画で、患者様にはわかりやすく気持ちよく利用していただける、またスタッフの方には部門間連携がしやすい病院運営がしやすいコンパクトな施設を目指している。

■建築主：武蔵野社 ■所在地：埼玉県伊奈町 ■構造：RC造 ■階数：地上4階 ■延床面積：11,075㎡ ■病床数：181床 ■施工：清水・東栄JV ■竣工：2023年6月予定

東畑建築事務所

沖縄医療生活協同組合とよみ生協病院
沖縄の環境に呼応し地域医療を支える



沖縄県豊見城市に位置し、透析・リハビリ・健診に特化した医療を展開しているとよみ生協病院の現敷地内での建て替え計画である。建て替えを契機として一般外来の開始と地域包括ケア病床52床の増床を行い、地域医療へのさらなる貢献を図っている。ゆるやかに屋外環境とつながる半屋外空間や強い日射を遮る深い庇と縦ルーバーなど、空間構成と外皮デザインにより沖縄の強い日差しと雨が多い亜熱帯気候に呼応した計画としている。

■建築主：沖縄医療生活協同組合 ■所在地：沖縄県豊見城市 ■構造：RC造 ■階数：地上8階 ■延床面積：11,660㎡ ■病床数：137床 ■施工：東江建設 ■竣工：2023年12月予定

内藤建築事務所

半田市立半田病院(仮称)
南海トラフ地震に対応した免震機構



隣接市の常滑市民病院との経営統合による機能分化の整備方針に基づき、知多半島唯一の三次救急医療と高度急性期医療を支える医療拠点を狙った新病院の移転整備計画。

南海トラフ巨大地震に対応するため、免震装置には球面すべり支承とフェイルセーフ機能付き下部基礎を直列に組み合わせた三つの摺動面を持つ新免震機構を採用し、これにより国内最大級の1,600mm可動を実現している。また、ライフサイクルエネルギーマネジメントを活用したエコ・ホスピタルを実現し、臭気対策として外気をすべて屋上から光触媒フィルターを介して取り入れる計画としている。

■建築主：半田市 ■所在地：愛知県半田市 ■構造：SRC一部S・RC造 ■階数：地下1階地上5階 ■延床面積：44,922㎡ ■病床数：416床 ■施工：新半田病院特定建設工事共同企業体(大林組・八洲建設・七番組・出亜電気工業・三和JV) ■竣工：2024年10月予定

三菱地所設計

+ EMOTION 心を動かし、未来をつくる。
代表取締役社長 谷澤 淳一
東京都千代田区丸の内2-5-1丸の内二丁目ビル
www.mjd.co.jp

人やまちを元気にする

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野 吉彦
おかげさまで2024年4月1日に創業100周年を迎えます

株式会社 山下設計

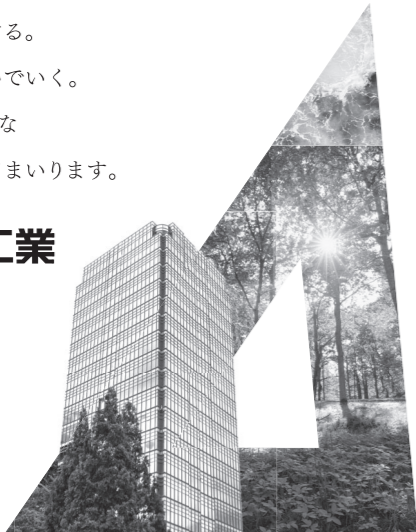
YAMASHITA SEKKEI INC.
ARCHITECTS, ENGINEERS & CONSULTANTS.
代表取締役社長 藤田 秀夫
東京都中央区日本橋小町6-1 TEL:03-3249-1555

with コロナ時代の
医療・福祉施設

人と地球にActionを。

建物の未来を創造する。
地球の未来をつないでいく。
私たちは、持続可能な
新たな社会を支えてまいります。

三建設備工業



NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED
日建設計
代表取締役社長 大松 敦

NIHON SEKKEI

日本設計 代表取締役社長 篠崎 淳
think+
QRコード

MHS 松田平田設計

代表取締役社長 江本 正和
https://mhs.co.jp

株式会社 大建設計

代表取締役社長 菅野 尚教
東京・大阪・名古屋・九州・札幌・東北・広島・北九州・沖縄
www.daiken-sekkei.co.jp

東畑建築事務所

TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.
代表取締役社長 President, Representative Director
米井 寛 Yutaka Yonei

株式会社 内藤建築事務所

代表取締役社長 川本雄三
本社 東京都左区田中大塚町182番地
電話 075-781-4111(代)
事務所 東京・名古屋・大阪・広島・九州
静岡・奈良・四国・南九州
https://www.naito-archi.co.jp

KUME SEKKEI 久米設計

代表取締役社長 藤澤 進
〒135-8567 東京都江東区潮見2-1-22 TEL(03)5632-7811
東京 札幌 東北 横浜 名古屋 京都 大阪 九州 沖縄 上海 ハンイホームミンガンボール

株式会社 佐藤総合計画

代表取締役社長 細田 雅春
axscom.co.jp

昭和設計

代表取締役社長 梶山卓二
大阪・東京・仙台・九州
https://www.showa-sekkei.co.jp

医療福祉建築特集 2023

久米設計

市立秋田総合病院

日本一高齢化が進む自治体病院のあり方



■建築主：地方独立行政法人市立秋田総合病院 ■所在地：秋田市 ■設計：久米・村田JV ■構造：SRC造 ■階数：地上13階 ■延床面積：30,282㎡ ■病床数：396床 ■施工：清水・佐々木・長谷川JV ■竣工：2022年6月

市立病院(396床)の現地建替計画。地域の超高齢化を見すえたこれからの急性期病院づくりのため、医療の質の向上と経済性の両立を実現。免震構造の「医療棟」と耐震構造の「医療支援棟」に分離し、経済的合理性と共に動線分離や関連部門の集約を図った。

病棟は1フロア60床の1看護単位とし、30床や15床のユニット看護にも対応するナースコーナーを設置。さらに、職員フロア専用化による働き易さの追求、病棟の変容性の確保など、コロナ後を見すえた持続性の高い病院づくりを目指した。

佐藤総合計画

済生会新潟県中央基幹病院

新潟県中央地域を支える新病院



■建築主：新潟県 ■所在地：新潟県三条市 ■設計：佐藤総合計画 ■基礎設計JV ■構造：SRC造、免震構造 ■階数：地上9階 ■延床面積：42,742㎡ ■病床数：400床 ■施工：建築/清水・新発田・栗田JV、電気/ユアテック・八重・大方JV、空調/ダイタン・NNC、日新工業JV、衛生/菱機・大洋・カサイJV ■竣工：2023年12月予定

新潟県の県央医療圏に位置する公立・公的5病院を再編統合する新病院の計画である。想定される災害に対し、柱頭免震構造の採用をはじめ、浸水想定高さまでの水密区画の形成、主な診療機能を2階以上に配置する等の対策を講じている。

外観は「県央地域の田園風景と調和し、地域の誇りとなる病院」をコンセプトに、外観は安定感のある基壇部と水平性を強調した病棟階が一体化したデザインとした。部門計画においては、患者ゾーン、スタッフゾーン、コアゾーンの明確な「3ゾーン構成」により患者・スタッフ動線の分離、短縮化を図った。

昭和設計

JCHO徳山中央病院

人に優しくわかりやすい機能的な病院



JCHO徳山中央病院は山口県周南医療圏の高度急性期、急性期医療を担う地域の基幹病院としての役割を担ってきた。『すべての人に優しくわかりやすい機能的な病院づくりと災害拠点病院としての機能充実』をコンセプトとしている。新設エントランスホールを中心に利用者動線を再構築することでわかりやすさを向上させ、災害時活動スペースの充実とライフラインの強化により、災害拠点病院として機能充実を図った。

■建築主：JCHO徳山中央病院 ■所在地：山口県周南市 ■構造：S一部RC造 ■階数：地下1階地上5階 ■延床面積：25,509㎡ ■病床数：今回計画/249床、病院全体/519床 ■施工：建築/熊谷組、電気/中電工、空調/衛生/新菱冷熱工業 ■竣工：2025年10月予定

梓設計

聖マリアンナ医科大学病院 入院棟

選ばれる病院～人・社会・未来から～



■建築主：聖マリアンナ医科大学 ■所在地：川崎市宮前区 ■構造：柱RC・梁S造、免震構造 ■階数：地下1階地上12階 ■延床面積：63,662㎡ ■病床数：955床 ■CM：梓設計 ■設計：総合・意匠/梓設計、構造/電気・機械/戸田建設 ■施工者：戸田建設 ■完成：2026年9月予定(全体)

写真提供：梓設計

本計画は「高度先進医療」「地域連携」「災害対策」「教育研修」の四つの機能強化を目指した特定機能病院の全体再整備計画である。

入院棟は免震構造の採用、屋上ヘリポートの設置、エネルギーの二重化、災害時の十分な備蓄量の設定等、災害拠点病院にふさわしい高い安全性を有している。既存病棟の全面改修による外来棟は、専門外来部門を積層した構成とした。また、既存機械棟の熱源利用や井水利用等、既存エネルギーの活用と緑地整備により省エネや環境向上も図った。

石本建築事務所

独立行政法人労働者健康安全機構 大阪ろうさい病院

南大阪の地域医療を支える高度医療病院



■建築主：独立行政法人労働者健康安全機構 ■所在地：堺市北区 ■構造：S一部CF造、RC造 ■階数：地上10階 ■延床面積：59,202㎡ ■病床数：678床 ■施工：建築/大林組、電気/関電工、機械/オーク設備工業 ■竣工：2024年12月予定

1962年の開設以来、南大阪地区の中核病院として高い医療水準を維持し、26診療科、病床数678床を有している。本計画では、既存施設の老朽化、狭隘化を敷地内建替により改善を図っている。新病院は各機能を集約し、高度急性期医療を担う「High Volume Center」として整備した。病棟は見守りがしやすい病室に面したオープンカウンターを設けている。新病院は2022年1月に開院し、外構整備後、グランドオープンは2024年12月の予定。

伊藤喜三郎建築研究所

湘南鎌倉総合病院

自然光による時間の流れと四季を感じる安らぎと寛ぎ



撮影/熊谷組

「救急を断らない」「生命だけは平等だ」という病院理念のもと、外傷救命救急センター棟、先端医療センター棟およびトモセラピー棟の増築を行った。先端医療センター棟は、陽子線、BNCT(ホウ素中性子線捕捉療法)や人間ドック、再生医療等、がんに関するさまざまな機能を集約させた世界有数の施設となっており、内・外装のデザインは金属パネルや光幕などによって先端医療の「未来感」を表現し、木や和紙、石などの自然素材で「あたたかみ」を感じられる空間としている。

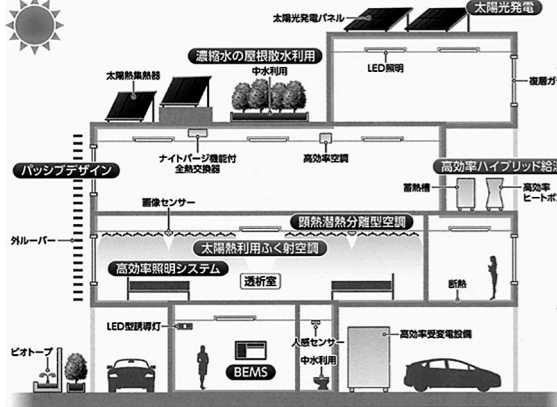
■建築主：医療法人徳洲会 ■所在地：神奈川県鎌倉市 ■構造：RC一部S造 ■階数：地下1階地上6階 ■延床面積：28,255㎡ ■病床数：121床(外傷救命救急センター) ■施工：熊谷組 ■竣工：2022年7月

医療福祉環境を最適化する技術

スマートクリニック

地域医療の発展、脱炭素の実現に貢献

高齢化が加速化する中、医療と介護に対する重要性が高まり、地域に根差した通いやすいクリニックは高齢者の方には大きな存在です。三建設備工業では、感染症の拡大防止や快適な室内環境の創造だけでなく、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネ・省資源にも配慮した「スマートクリニック」を推進しています。温度ムラが少なく風を感じない快適性の高い「ふく射空調システム」、サラッとした空気で室内環境を快適かつ感染症対策等で換気量を増やしても省エネである除湿給気ユニット「エコサラ」(2021年度省エネ大賞受賞)、建築設備の効率的な維持管理・運用改善につなげるBEMS「Sanken Smart BA System」などの当社保有技術を利用して、安全、快適および省エネルギーな提案をし、地域医療の発展とカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。



「スマートクリニック」のシステム例

三建設備工業

飛沫バスター

せきやくしゃみなどの飛沫を吸込み室外へ排出

当社が開発、販売する「飛沫(ひまつ)バスター」は、室内での人からの吐息・せき・くしゃみなどによる飛沫をホッパー部から吸込み、室外へ排出する天井吊り型の飛沫収集器です。

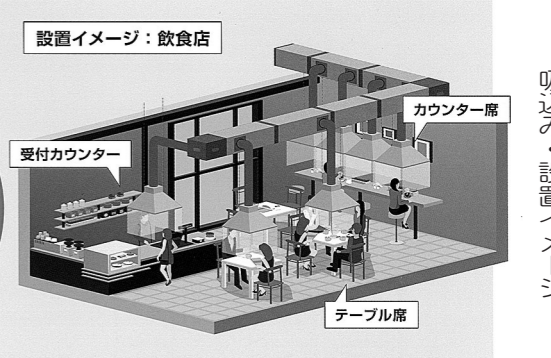
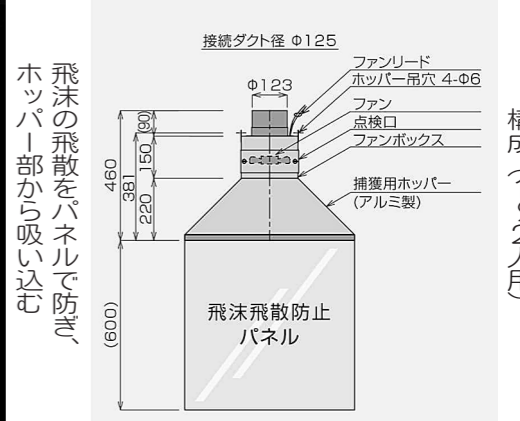
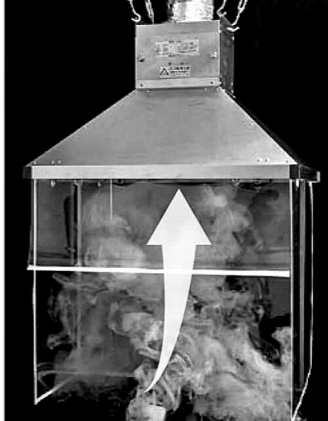
従来の循環式殺菌方法では室内空気中の除菌に時間を要しますが、「飛沫バスター」は人が対面する場所などに設置することによって、飛沫内に含まれるウイルスを室内にまん延させることなく室外へ排出し、安全で清潔な空気環境をつくることができます。

標準仕様は、1～2人用が600mm(幅)×600mm(奥行)×460mm(高さ)、毎時風量90㎡、重量3.9kg、4人用は毎時風量180㎡のタイプが600mm×600mm×460mm、重量4.5kg、毎時風量240㎡のタイプが1200mm×600mm×690mm、重量11kgです。本体材質にはPETとアルミ板を採用し、軽量化を図っています。

既存の室外排気用ダクトに取り付けられ、1台から複数台の設置が可能です。

病院やクリニック、老人ホーム、会社の会議室・応接室、飲食店など対面での作業や会話が多い場所での感染予防対策に有効です。

当社は、空調機器や乾燥機器の設計から製造、施工まで一貫して行える体制を整え、1959年の創業以来お客様のニーズに応えた幅広い製品を展開してまいりました。引き続き、感染症対策、省エネ、脱炭素化などお客様の課題解決にお役に立てる製品づくりに、全社一丸で取り組んでまいります。



日本電化工機

構成(下)2人用

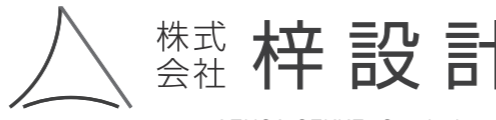
吸込み・設置イメージ



代表取締役社長 藤澤 一郎

大阪市西区江戸堀1-9-25 電話06-6447-8000

すべての利用者に、ホスピタリティを。



株式会社 梓設計 AZUSA SEKKEI Co., Ltd.



石本建築事務所 代表取締役社長 長尾 昌高

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-6-12 tel. 03-3262-7161 https://www.ishimoto.co.jp

伊藤喜三郎建築研究所 KITO Architects & Engineers Inc.

代表取締役社長 森嶋 浩

本社 東京都豊島区高田2-17-22 03-5954-7681

室内での飛沫からの感染対策に!!

室内での人からの「吐息・咳・くしゃみ」などによる飛沫をホッパー部(機器上部の吸込みファン)から吸込み、室外へ排出する天井吊り型の飛沫収集器です。従来からある室内空気の循環式殺菌方法では除菌に時間を要しますが、「飛沫バスター」は人が対面する場所などに設置することによって、飛沫内に含まれるウイルスを室内に蔓延させることなく室外へ排出し、安全かつ清潔な空気環境を作ることができます。



室内の飛沫を吸込み 即 室外へ

ウイルス感染症飛沫収集器 飛沫バスター (特許製品:PT6995394)



飛沫は上部のファンで排気ダクトから即室外へ仕切りの反対側へは飛散しない! ※仮に飛散しても対面者に届くまえに吸い上げる。

設置場所

病院
福祉・介護施設の面談室
会議室・応接室・社員食堂等